

科目概要 《大学院共通科目》

医療・福祉マネジメント研究科

医療・福祉マネジメント専攻 修士課程

□講義科目(大学院共通科目)

科目名	私の研究テーマと 研究方法	2 単位
担当教員	中島 民恵子	
科目のねらい	この科目は、全研究科が合同で開講する大学院共通科目である。大学院で研究を始めようとする院生に本学の教員が取り組んでいる研究テーマやそれに応じた研究方法を紹介する。 また社会連携の視点から一般市民の皆さん、これから研究者をめざそうとする方々、実務関係者、そして学部学生にも広く公開している。各教員がリレー形式で、自分の研究テーマ、研究の背景、問題関心、研究方法、あるいは研究者としてたどった道筋などを解説する。扱う領域は福祉、心理、開発、看護、スポーツなど多岐にわたる。研究テーマと研究方法の多様性と 実際を理解し、自らの研究に向けて参考や示唆を得ることができることを学習目標とする。	
開講形態	ハイブリッド 形式	
授業の 進め方	4 月 7 日(月) 6 限 18:25-19:55 中島民恵子 オリ エンテーション	
	4 月 14 日(月) 6 限 18:25-19:55 原田正樹 地域共生社会の理念と 施策 ー地域福祉の視点から	
	7 限 20:05-21:35 湯原悦子 介護殺人の実態と 予防～研究と 実践をつなぐ	
	4 月 28 日(月) 6 限 18:25-19:55 大谷京子 障害差別マイクロアグレッション	
	7 限 20:05-21:35 遠藤秀紀 実証研究への関わり 方～分析のときに気をつけていること	
	5 月 12 日(月) 6 限 18:25-19:55 吉野真紀 ジェンダー問題に悩む方々の心理的特徴と 心理臨床的支援	
	7 限 20:05-21:35 青木聖久 もうひとつの経済的支援 ー疾患と 障害が併存する精神障害がある人にとって不可欠な福祉医療の仕組みと 実態を中心にー	
	5 月 26 日(月) 6 限 18:25-19:55 三井利仁 パラアスリート の病態生理を明らかにする ー酸化 LDL の動態についてー	
	7 限 20:05-21:35 川島ゆり 子 個別支援と 地域支援を連動する人材養成研修の課題	
	6 月 9 日(月) 6 限 18:25-19:55 森 礼子 地域における結核療養者支援 ー治療中断を防ぐために	
	7 限 20:05-21:35 綿 祐二 次世代型の福祉施設運営～人材育成から ICT の導入～	
	6 月 23 日(月) 6 限 18:25-19:55 中村強士 子どもの貧困と 保育ソーシャルワーク	
	7 限 20:05-21:35 吉村輝彦 これからの地域づくりをどのように捉えていく のか ー実践と 理論の往還	
	7 月 7 日(月) 6 限 18:25-19:55 野尻紀恵 教育福祉と 福祉教育そしてスクールソーシャルワーク	
	7 限 20:05-21:35 末盛 慶 日本の社会構造と 生活戦略ー社会学への誘い	
事前学習の内容 学習上の注意	講義ごとにコメント 用紙を提出すること。※nfu.jp 上に、講義日の翌日中に提出。	
テキスト	なし	
成績評価 方法と 基準	小レポート 50 点、最終課題レポート 50 点で 100 点満点。60 点以上を合格とします。 小レポート は講義ごとに所定の様式で提出いただくものです。最終課題レポート は全 15 講義のうち、少なくとも 2 講義を選んで、それぞれについて(単なる感想でなく)「 講義から学んだこと」を所定の用紙に1 講あたり 1 枚に書いて、全 15 講義終了後に所定の方法で提出してください。	

□講義科目(大学院共通科目)

科目名	研究方法概論 I	1 単位
担当者	末盛 慶	
開講形態	オンデマンド形式 ※【nfu.jp】で配信される講義コンテンツを視聴しながら学ぶ	
テーマ	研究方法の基礎知識と量的方法について理解を深める。	
科目のねらい	<キーワード> 研究方法 量的方法 理論 仮説 社会調査 統計学、多変量解析 <内容の要約> 本科目では各院生が研究を進めていく上で必要となる研究方法について学び、研究方法の基礎知識と量的方法について理解を深める。具体的には、社会科学のリサーチデザイン、仮説および質問紙の作成方法、調査の実施方法、データ入力の方法、記述統計、推測統計、多変量解析について説明する。以上の手法を用いた論文の読み方も理解できるように講義を進めていく。 <学習目標> ① 研究方法の基礎知識と量的方法の概要を理解できる。 ② 量的データの収集方法を理解できる。 ③ 量的データの分析方法を理解できる。	
授業の進め方	第1回 社会科学研究入門：存在論・認識論・リサーチデザイン 第2回 量的研究の進め方：理論・仮説・分析モデル 第3回 質問紙の作成とサンプリング：データ入力とその後の管理も含めて 第4回 統計学の基礎Ⅰ－統計学の概要と記述統計 第5回 統計学の基礎Ⅱ－推測統計を学ぶ 第6回 多変量解析の基礎Ⅰ－グループ間の差の検定 第7回 多変量解析の基礎Ⅱ－相関分析 第8回 多変量解析の基礎Ⅲ－回帰分析	
事前学習の内容 学習上の注意	本科目はオンデマンド授業のため、開講している期日までに必ず該当する回を履修すること。一部分でも期限内に受講しないと、単位認定の対象外となる。 以下にあげた参考文献のうち、高根正昭『創造の方法学』、轟亮・杉野勇・平沢和司『入門・社会調査法』などを読みながら、受講することをお勧めする。 なお、社会調査についてわからない事柄があった場合は、一般社団法人社会調査協会『社会調査事典』を、統計学についてわからない事柄があった場合は、大澤光『わかる・使える統計学用語』、Sarah Boslaugh(黒川利明訳)『統計クイックリファレンス(第2版)』などを参照すると良い。	
本科目の 関連科目	私の研究テーマと研究方法(大学院共通科目)、統計解析講座(大学院共通科目)	
テキスト	毎回オリジナルのレジュメを用いる。	
参考文献	【研究方法論の基礎】 高根正昭, 1979, 『創造の方法学』講談社現代新書 野村康, 2017, 『社会科学の考え方：認識論、リサーチ・デザイン、手法』名古屋大学出版会 戸田山和久, 2022, 『最新版 論文の教室：レポートから卒論まで』NHK ブックス 【社会調査】 轟亮・杉野勇・平沢和司, 2021, 『入門・社会調査法(第4版)』法律文化社 一般社団法人社会調査協会, 2014, 『社会調査事典』丸善出版 【統計学】 向後千春・富永敦子, 2007, 『統計学がわかる』技術評論社 大澤光, 2016, 『わかる・使える統計学用語』アーク出版 Sarah Boslaugh(黒川利明訳), 2015, 『統計クイックリファレンス(第2版)』オーム社 【多変量解析】 栗原伸一・丸山敦史, 2017, 『統計学図鑑』オーム社 米川和雄・山崎貞政, 2010, 『超初心者向け SPSS 統計解析マニュアル』北大路書房 村瀬 洋一・高田 洋他, 2007, 『SPSS による多変量解析』オーム社 浦上昌則・脇田貴文, 2020, 『心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方(改訂版)』東京図書	
成績評価 方法と基準	期末レポート(50点)、授業内容に関する受講生のコメント・毎回提出(50点)により評価し、総合評価60点以上を合格とする。	

□講義科目(大学院共通科目)

科目名	研究方法概論Ⅱ	1 単位
担当者	末盛 慶	
開講形態	オンデマンド形式 ※【nfu.jp】で配信される講義コンテンツを視聴しながら学ぶ	
テーマ	研究方法の基礎知識と質的方法について理解を深める。	
科目のねらい	<キーワード> 質的方法 研究課題、質的データの収集、質的データの分析、質的研究の評価 <内容の要約> 本科目では各院生が研究を進めていく上で必要となる研究方法について学び、研究方法の基礎知識と質的方法について理解を深める。具体的には、質的方法の概要、研究課題の設定、質的データの収集方法、質的データの分析法の概要を解説する。 <学習目標> ① 研究方法の基礎知識と質的方法の概要を理解できる。 ② 質的データの収集方法を理解できる、 ③ 質的データの分析方法を理解できる。	
授業の進め方	第1回 社会科学の認識論と質的研究：存在論・認識論・リサーチデザイン 第2回 質的研究の進め方：研究課題を設定するまでのプロセス 第3回 質的調査法Ⅰ 一対面インタビューとグループインタビュー 第4回 質的調査法Ⅱ 観察法とエスノグラフィー 第5回 質的調査法Ⅲ 多様な質的データの収集法 第6回 質的データ分析法の基礎Ⅰ ナラティブ型の分析 第7回 質的データ分析法の基礎Ⅱ コーディング型の分析 第8回 質的データ分析法の基礎Ⅲ ディスカース型の分析	
事前学習の内容 学習上の注意	本科目はオンデマンド授業のため、開講している期日までに必ず該当する回を履修すること。一部でも期限内に受講しないと、単位認定の対象外となる。 以下の参考文献のうち、中嶋洋『初学者のための質的研究 26 の教え』、工藤保則・寺岡伸悟・宮垣元『質的調査の方法』を読みながら受講することをお勧めする。Pranee Liamputtong『質的研究法:その理論と方法:健康・社会科学分野における展開と展望』も良書である。【質的方法の調査法および分析法】にあげられている本を読むと、個々の質的調査法や分析法に関する理解が深まる。	
本科目の 関連科目	私の研究テーマと研究方法(大学院共通科目)、統計解析講座(大学院共通科目)	
テキスト	毎回オリジナルのレジュメを用いる。	
参考文献	【研究の基礎】 高根正昭, 1979, 『創造の方法学』講談社現代新書 野村康, 2017, 『社会科学の考え方: 認識論、リサーチ・デザイン、手法』名古屋大学出版会 上野千鶴子, 2018, 『情報生産者になる』筑摩書房 【質的方法の概要】 中嶋洋, 2015, 『初学者のための質的研究 26 の教え』医学書院 グレッグ美鈴・麻原きよみ他. 2016. 『よくわかる質的研究の進め方・まとめ方: 看護研究のエキスパートをめざして』医歯薬出版 Pranee Liamputtong(木原雅子・木原正博訳), 2022, 『質的研究法: その理論と方法: 健康・社会科学分野における展開と展望』メディカルサイエンスインターナショナル プシュカラ・プラサド(箕浦康子監訳), 2018, 『質的研究のための理論入門』ナカニシヤ出版 ハイディ・レヴィット(能智正博他訳), 2023, 『心理学における質的研究の論文作法』新曜社 【質的方法の調査法および分析法】 スタイナー・クヴァール(能地正博・徳田治子訳), 2016, 『質的研究のための「インター・ビュー」』新曜社 ティム・ラプリー(大橋靖史訳), 2018, 『会話分析・ディスコース分析・ドキュメント分析』新曜社 マイケル・アングロシーノ(柴山真琴訳), 2016, 『質的研究のためのエスノグラフィーと観察』新曜社 グラハム・R・ギブズ(砂上史子・一柳智紀・一柳梢訳), 2017, 『質的データの分析』新曜社 戈木クレイグ・ヒル滋子. 2021. 『グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた研究ハンドブック』新曜社 木下 康仁. 2020. 『定本 M-GTA :実践の理論化をめざす質的研究方法論』医学書院	
成績評価 方法と基準	期末レポート(50 点)、授業内容に関する受講生のコメント・毎回提出(50 点)により評価し、総合評価 60 点以上を合格とする。	

□講義科目(大学院共通科目) ※1 年次履修登録可(2 年次は聴講のみ可)

科目名	先端老年社会科学講座 (国立長寿医療研究センター連携科目)	1 単位
担当者	島田裕之(非常勤教員)、大塚 礼(非常勤教員)、斎藤 民(非常勤教員)	
開講形態	ハイブリッド 形式	
テーマ	高齢者や老化の問題を学際的な視点から学ぶ	
科目のねらい	<キーワード> 健康増進、疾病・障害予防、コホート 研究、認知症 <内容の要約> 老年社会科学は、高齢者や慢性疾患患者の保健・医療・福祉に関する諸問題に対し、医学、心理学、社会学、福祉学、栄養学など様々な学問における理論や方法論を用いて学際的な視点から研究を行う学問である。本講義では、3 名の担当者から基礎知識だけでなく、老年社会科学に関する最新の知見を紹介する。 <学習目標> 老年社会科学の基礎的な知識と最新の知見を理解し、個々に問題意識や関心を持ち、現在の立場でできる行動計画を立案する。	
授業の進め方	第 1 回 高齢化の疾病・障害予防についての動向(島田) 第 2 回 高齢者のフレイル予防(島田) 第 3 回 高齢者の認知症予防(島田) 第 4 回 高齢者の移動に関する問題について(島田) 第 5 回 高齢者のウェルビーイング(斎藤) 第 6 回 高齢期の社会関係(斎藤) 第 7 回 高齢期の栄養・食生活と健康(大塚) 第 8 回 認知症と食事：一次予防から三次予防まで(大塚)	
事前学習の内容・学習上の注意	各回における講義テーマについて事前に文献等を調べて事前学習をすること。	
本科目の関連科目	福祉と疾病、リハビリテーション特論Ⅰ、医療・福祉マネジメント (以上、医療・福祉マネジメント 研究科) 高齢者福祉論特講(社会福祉学研究科 社会福祉学専攻(通信教育))	
テキスト	指定なし	
参考文献	指定なし	
成績評価方法と基準	各講義日(2 限分) の小レポート 40 点、最終レポート 60 点で 100 点満点。総合評価により 60 点以上を合格とする。	

□講義科目(大学院共通科目) ※1 年次履修登録可(2 年次は聴講のみ可)

科目名	統計解析講座 (国立長寿医療研究センター連携科目)	1 単位
担当者	川野 伶緒(客員非常勤教員)	
開講形態	対面形式	
テーマ	研究における実践的問題を解決するための統計学の方法論について理解を深める。	
科目のねらい	<キーワード> 統計学、臨床疫学、統計解析 <内容の要約> 本科目では、研究における実践的な問題を解決するための統計学の理論・応用について学ぶ。ただし、統計や統計学には膨大な研究の蓄積があり、その実践はきわめて多岐にわたるため、本科目のみでそのすべてを取り扱うことはできない。そこで研究を遂行する上で避けて通れない“交絡”という現象を中心に、データ解析の方法論について理解を深める。具体的には、交絡という不思議な現象とその影響、交絡の調整方法、回帰分析による解析方法とその解釈について解説する。またこれらを習得するためサンプルデータを用いたデータ解析の実践演習を行う。演習には R/RStudio という無料で利用できる統計解析ソフトウェアを用いる。 <学習目標> 1. データの種類や性質に応じたデータの記述と用いる指標を理解することができる。 2. 交絡を理解し回帰分析による交絡調整ができる。 3. 統計や統計学的知識を正しく使うための留意点を知り、自身の研究につなげることができる。	
授業の進め方	第 1 回 研究仮説の立て方と Directed Acyclic Graph の応用 第 2 回 R/RStudio を用いたデータハンドリングと図表作成 第 3 回 交絡という現象とその対処 第 4 回 回帰分析による交絡調整 第 5 回 R/RStudio を用いた多変量解析Ⅰ 第 6 回 R/RStudio を用いた多変量解析Ⅱ 第 7 回 データ解析の実践演習 第 8 回 発表、まとめ、レポート 作成	
事前学習の内容・学習上の注意	講義時間が限られているため、「本科目の関連科目」に示した科目にて取り扱う内容を理解していること前提とする。 また、統計学的命題について、厳密な数学的証明は避け、あくまで統計・統計学のエンドユーザーとして必要とされる直感的な理解を目指す。必要に応じて以下の参考文献や講義中に提示する文献等を参照されたい。	
本科目の関連科目	研究方法概論Ⅰ(大学院共通科目)、研究方法概論Ⅱ(大学院共通科目)	
テキスト	指定なし(必要に応じ講義資料を配布する)	
参考文献	基礎統計学Ⅰ 統計学入門. 東京大学出版会(ISBN: 978-4-13-042065-5) 現代疫学(原著第 4 版). 学術図書出版社(ISBN: 978-4-7806-1245-5)	
成績評価方法と基準	1 回ごとのコメントカードの内容(最大 40 点)、発表(最大 20 点)、レポート 評価点(最大 40 点)を合わせた総合点によって成績評価する。総合点が 60 点以上の場合を合格とする。	

□講義科目(大学院共通科目)

科目名	多職種連携実践 I	2 単位
担当者	山内 哲也(非常勤教員) 認定社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士	
テーマ	福祉の実践事例から 多職種連携・ 地域連携について学ぶ	
開講形態	ハイブリッド 形式	
科目のねらい	<キーワード> 多職種連携 多業種連携 地域連携 重層的支援 地域包括ケア 多職種連携教育 <内容の要約> 地域における各種事例の問題解決や福祉資源・地域づくりの多職種連携・地域連携の実践報告から「専門家の協働」「地域の連携」「有限な資源で最大限の成果を生み出す『やりくり』」について考え、多職種連携の課題と方法を学びます。 各領域の実践家による実践報告、学生との討議などから総合的に学ぶ教育方法をとります。 土曜日午後に開講し、平日多忙な人や遠隔地の人も参加しやすい配慮をします。 また、広く 市民も受講できるよう一般公開します。 <学習目標> ・ 多様なニーズへの対応、専門性の向上、地域づくりに必要な「多職種連携」について学び、実践力を高めることができる。 ・ 自分自身の問題意識、関心にひきつけ、他の実践事例から 有効な実践・思考フレームを構築して応用できる。	
授業の 進め方 1 限 13:25-14:55 2 限 15:05-16:35 3 限 16:45-18:15	5月17日(土)	
	1 限	実践に活かす多職種連携教育-ケースメソッド の有効性-
	2 限	司法福祉実践における多職種連携
	3 限	ピアスーパービジョン 討論と 担当教員のまとめ
	6月21日(土)	
	1 限	災害福祉と 多職種連携
	2 限	多職種で支える 意思決定支援-訪問看護の現場から -
	3 限	ピアスーパービジョン 討論と 担当教員のまとめ
	8月30日(土)	
	1 限	多職種で取り 組む意思決定支援-身寄りのない方への支援- 多職種連携の本質的課題解決に向けて
	2 限	-法人内連携 (医療・ 介護)・リハビリネット ・行政連携の実践-
	3 限	ピアスーパービジョン 討論と 担当教員のまとめ
	10月25日(土)	
	1 限	地域包括ケアにおける社会福祉士・ ケアマネの役割
	2 限	個人開業による対人援助職の実践と 多職種連携
	3 限	ピアスーパービジョン 討論と 担当教員のまとめ
	12月13日(土)	
	1 限	地域の中の居場所づくり -地域をゆるく つなぐ -
	2 限	都市型複合施設の地域まちづくり -地域連携・ 越境学習-
	3 限	ピアスーパービジョン 討論と 担当教員のまとめ
事前学習の内容学習上の注意	指定した参考文献は事前に読んでおくといいです。	
本科目の関連科目	多職種連携概論(福祉サービスマネジメント 概論)	
テキスト	テキスト は使用しません。必要に応じて資料を配布します。	
参考文献	多職種連携の技術ー地域生活支援のための理論と 実践 野中猛 中央法規 多職種連携を高める チームマネジメント の知識とスキル 篠田道子 医学書院 専門職連携教育プログラム 柴崎智美・ 米岡裕美・ 古谷牧子他 ミネルヴァ 書房	
成績評価方法と基準	毎回の小レポート 40 点、最終レポート 60 点で 100 点満点。総合評価により 60 点以上を合格とします。	

科目名	多職種連携実践Ⅱ（申請に基づく単位認定科目）		2単位															
概 要	この科目は単位認定申請科目です。本学が学内・学外者向けに開催している講座・セミナーのうち、社会福祉学研究科および医療・福祉マネジメント研究科が認定する企画（医療・福祉分野の高度専門職業人に必要とされる知識やスキルの獲得を目的としたもの）を受講することにより、単位認定申請が可能です。																	
単位認定対象企画および要件	単位認定対象企画 ※本科目は、年度当初に履修登録をおこなう必要はありません。企画により参加費が必要です。																	
	日本福祉大学大学院特別公開セミナー（大学院主催）																	
	[第1講] 6月15日(日) [第2講] 7月6日(日) [第3講] 9月28日(日) [第4講] 10月19日(日) [第5講] 11月30日(日) [第6講] 12月14日(日) ＊開催時間: 13:15～16:30（全講で同一） ＊開催形式: ハイフレックス(名古屋キャンパスでの対面 または オンライン)を参加者が選択)																	
	質的研究会主催研修会（日本福祉大学質的研究会主催）																	
	[質的研究事始め] 5月25日(日) [夏季大学院公開ゼミナール分科会] 7月27日(日) ※当日は複数の分科会が実施されます。単位認定を希望する場合、必ず質的研究会が主催する分科会をご選択ください [質的研究継続研修] 11月2日(日)、11月23日(日) ※両日参加が原則です ＊開催時間: 未定(全日程で終日実施予定) ＊開催形式: 未定																	
単位認定対象企画および要件	夏季大学院公開ゼミナール（日本福祉大学福祉社会開発研究所主催）																	
	[夏季大学院公開ゼミナール] 全体会: 7月26日(土) 分科会: 7月27日(日) ＊開催時間: 未定(全日程で終日の実施予定) ＊開催形式: 全企画において未定																	
	※各企画詳細は、本学ホームページ等で順次公開されるほか、学籍メールアドレスに通知いたします。																	
	＜下記表の○を1つ、もしくは△2つ以上を満たすことで、単位認定申請可＞																	
	<table><tr><th>企画名</th><th>全日程 受講</th><th>3日間以上 受講</th><th>開催日</th></tr><tr><td>日本福祉大学大学院 特別公開セミナー</td><td>○</td><td>△</td><td>①6/15 ②7/6 ③9/28 ④10/19 ⑤11/30 ⑥12/14</td></tr><tr><td>質的研究会主催研修会</td><td></td><td>△</td><td>①5/25 ②7/27 ③11/2, 11/23</td></tr><tr><td>夏季大学院公開ゼミナール</td><td>△</td><td></td><td>①7/26, 7/27</td></tr></table>			企画名	全日程 受講	3日間以上 受講	開催日	日本福祉大学大学院 特別公開セミナー	○	△	①6/15 ②7/6 ③9/28 ④10/19 ⑤11/30 ⑥12/14	質的研究会主催研修会		△	①5/25 ②7/27 ③11/2, 11/23	夏季大学院公開ゼミナール	△	
企画名	全日程 受講	3日間以上 受講	開催日															
日本福祉大学大学院 特別公開セミナー	○	△	①6/15 ②7/6 ③9/28 ④10/19 ⑤11/30 ⑥12/14															
質的研究会主催研修会		△	①5/25 ②7/27 ③11/2, 11/23															
夏季大学院公開ゼミナール	△		①7/26, 7/27															
単位認定対象企画および要件	※注意: 単位認定申請には、各企画の修了証およびレポートの提出が必須です。																	
	1. 単位認定申請の手順 1) 参加申込をおこなう。 ※申込方法は学籍メールアドレスに通知します 2) 各企画を受講後、「修了証」等を受け取る。 3) レポート課題の作成。 ※下記「成績評価」欄に示すテーマについてレポートを作成してください。 4) 必要書類[上記 2) 修了証、3) レポート課題]を提出し、単位認定申請をおこなう。 ※単位認定申請の結果は後期成績発表時に通知します。 ※修了証は原本、コピーしたものいずれかを郵送ください。メールでの提出は不可です。なお、原本を提出された場合、返却しませんので予めご承知おきください。																	
	2. 単位認定の申請期限および申請方法 1) 提出書類: 修了証 + レポート課題 ※受講企画ごとに、修了証+レポート課題の提出が必要となります。 2) 提出期間: 2025年12月15日(月)～2026年1月9日(金) ※最終日必着 3) 提出方法: 名古屋キャンパス北館 1階レポート提出ボックス または 郵送による提出																	
成績評価	修了証の提出と、提出されたレポートが「合格」と判定されると単位認定されます。 レポートのテーマは以下の2点。受講企画ごとに、A4版(40字×40行程度)3枚以内とします。 1. 受講した企画で新たに学んだ要点 2. 受講した企画で学んだ中での多職種連携への視点																	